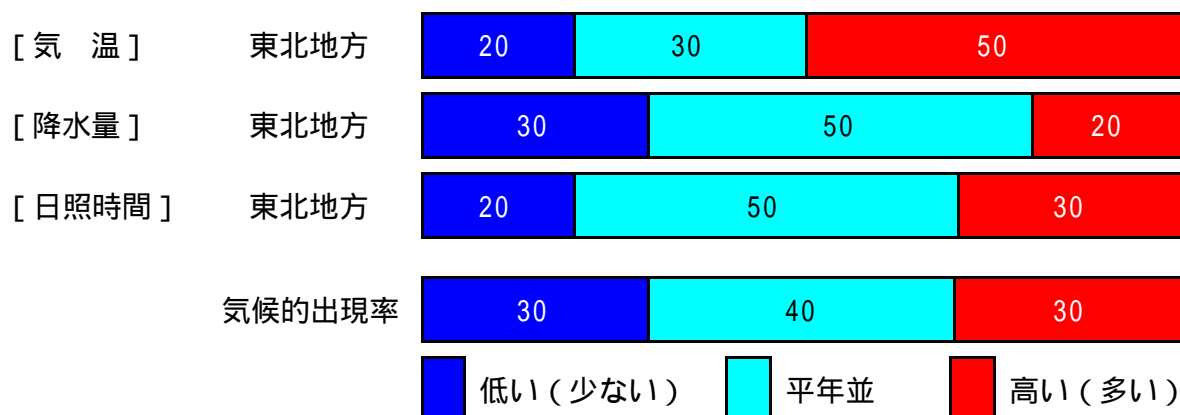


東北地方 1 か月予報の解説（予報期間：6 月 26 日～7 月 25 日）

平成 11 年 6 月 25 日 仙台管区气象台

1. 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



[気 温]: 東北地方は「高い」の可能性が大きく、その確率は 50％です。次に大きい確率は「平年並」で 30％です。「低い」確率は 20％と小さい。

[降 水 量]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50％です。次に大きい確率は「少ない」で 30％です。「多い」確率は 20％と小さい。

[日照時間]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50％です。次に大きい確率は「多い」で 30％です。「少ない」確率は 20％と小さい。

2. 予想される天候の特徴（もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。）

向こう 1 か月

梅雨前線や低気圧の影響を受け、平年同様曇りや雨の日が多いですが、後半は平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

平均気温は「高い」でしょう。（平年の晴れ日数は約 12 日です。）

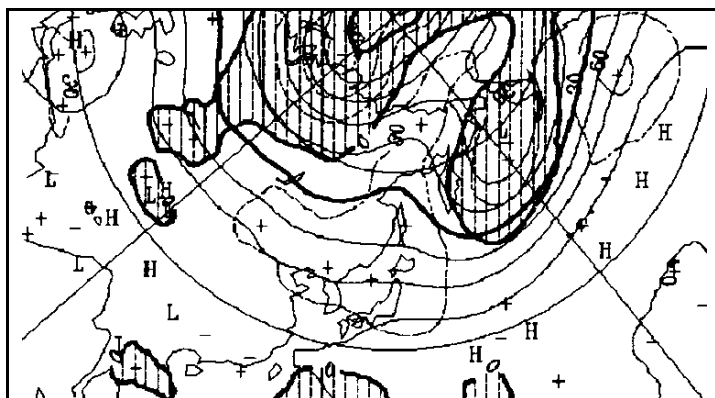
各予報期間の天候の特徴

1 週目…………… 27～28 日頃にかけて、低気圧や梅雨前線の影響で天気が崩れますが、その（6 月 26 日～7 月 2 日）後は高気圧に覆われ、北部を中心に晴れる日が多いでしょう。
平均気温は高い見込みです。
（平年の晴れ日数は約 3 日です。詳細は週間天気予報を参照して下さい。）

2 週目…………… 梅雨前線や低気圧の影響で平年同様曇りや雨の日が多いでしょう。（7 月 3 日～7 月 9 日）平均気温は平年並の見込みです。
（平年の晴れ日数は約 3 日です。）

3～4 週目…………… 梅雨前線や低気圧の影響で曇りや雨の日もありますが、平年に比べ晴れの（7 月 10 日～7 月 23 日）日が多いでしょう。
平均気温は高い見込みです。
（平年の晴れ日数は約 7 日です。）

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

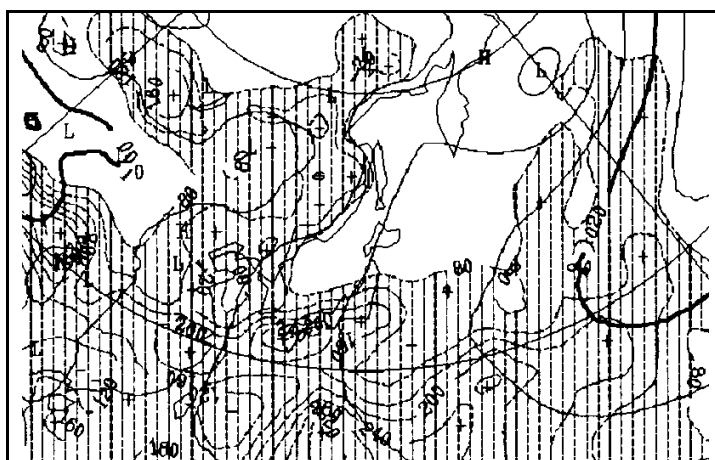


月平均の 500hPa 高度・偏差
(等高線: 60m 毎、偏差: 30m 毎、陰影部: 負偏差)

・ 500hPa 高度・偏差

月平均では、日本付近は広く正偏差に覆われている。また 5880m 線が日本の南岸に位置し、オホーツク海にはリッジがあり、日本付近は逆位相パターンだが、はっきりしたものではない。

2 週目（図略）は、オホーツク海にリッジはあるが日本付近はゾーナルな流れで、広く正偏差におおわれる。3～4 週目には 5880m 線が東日本にかかる。



月平均の地上気圧と降水量
(等圧線: 4hPa 毎、降水量: 40mm 毎、陰影部: 80mm 以上)

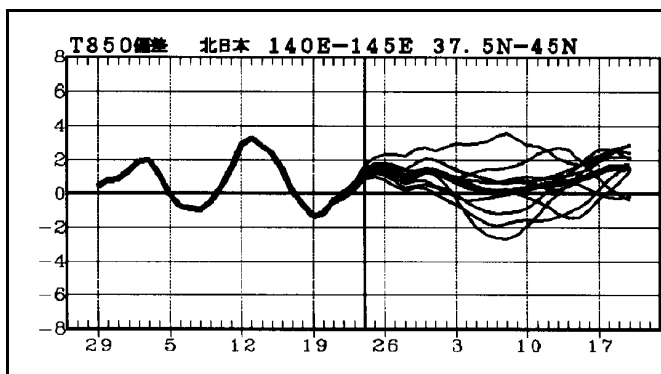
・ 地上気圧と降水量

月平均では、梅雨前線に対応して日本の南岸にまとまった降水域がかかっている。また、太平洋高気圧が東から張り出すが、オホーツク海高気圧ははっきりしない。

2 週目以降の地上の降水量（図略）は、日本付近に広がるが、まとまったものは見られない。

3．北日本 850hPa の気温偏差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温は、アンサンブルメンバーの平均でみると、2 週目は平年並だが、それ以外の期間は平年より高い。ただし、アンサンブルメンバーのバラツキは大きく、2 週目以降に低温を予測するメンバーも見られる。



北日本 850hPa 高度（上空約 1500m）での気温偏差の実況と予想

縦軸：気温偏差（℃） 横軸：日付

発表日以降の細線は各アンサンブルメンバーの予想値、太線は平均値。

注）・資料の内容を他の要素により修正して予報を組み立てることがあります。

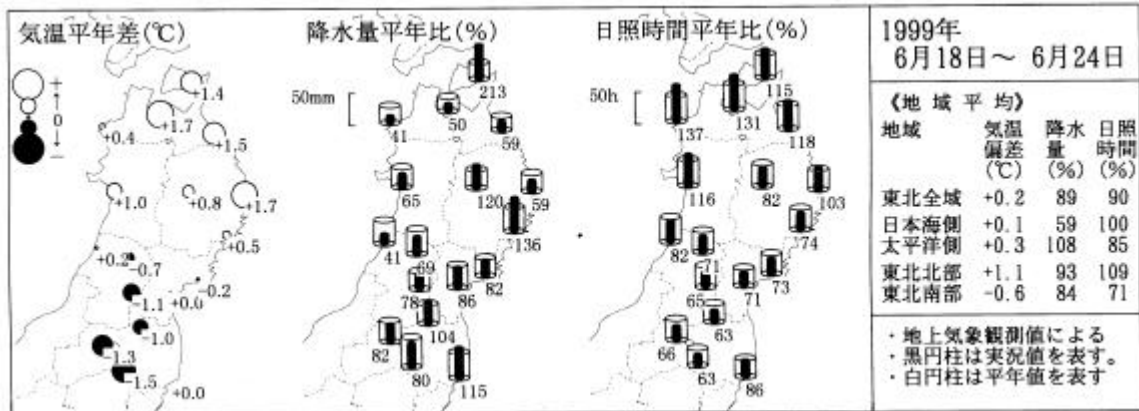
・ 850 hPa の気温は、地上の気温と必ずしも対応しないことがあります。

注：1 か月予報では、よく似た初期値から出発した 10 個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10 個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4. 最近1週間(6月18日~6月24日)の天候の経過

この期間、北部は期末を除き移動性の高気圧に覆われ、晴れの日が多かった。南部は前半と期末に梅雨前線や低気圧の影響を受け、天気がぐずついた。

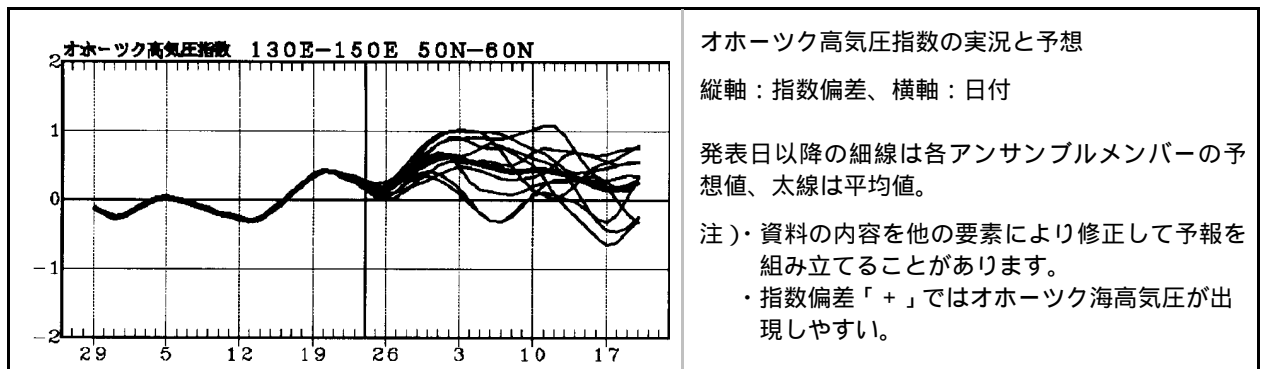
気温は北部で平年を上回り、南部は平年を下回る。降水量は日本海側で平年を下回り、太平洋側で平年を上回る。日照時間は北部で平年を上回り、南部は平年を下回る。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)

5. その他

オホーツク高気圧指数は、アンサンブルメンバーの平均でみると1週目は高いが、その後はほぼ平年並。しかし、2週目以降はバラツキが大きく、信頼度は小さい。



梅雨は春から夏に移行する過程で、その前後の時期と比べて雨が多くなり、日照が少なくなる季節現象です。季節の変化は、ある日を境に明瞭にその季節に入り又は終わることはなく、双方の季節が交互に現れる遷移期間を経て変化しています。このため、梅雨の入り・明けの時期を遷移期間(平均的に5日間程度)の概ね中日をもって「日頃」と表現しています。

この時期、日本付近は梅雨前線や低気圧の影響を受けやすく、年による違いはありますが、特に梅雨末期には南から暖かく湿った空気が流れ込んで梅雨前線の活動が活発となり、大雨となったりすることから、土砂災害等防災上の注意が必要な季節です。

梅雨入り・明けの時期

	今年の梅雨入り	平年の梅雨入り	昨年の梅雨入り	平年の梅雨明け	昨年の梅雨明け
東北南部	6月7日頃	6月12日頃	6月3日頃	7月23日頃	特定しない
東北北部	6月7日頃	6月14日頃	6月3日頃	7月26日頃	特定しない